



支部総会は議決権行使書で行われる

総会報告

5月9日(土)に2020年度東京多摩支部通常総会が議決権行使書にて行われた。参加者と委任状提出者の合計は181名で、会員244名の定足数(過半数)の122名を満たし、総会は成立した。

第1号議案(事業報告)、第2号議案(決算報告)、第3号議案(事業計画案)、第4号議案(予算案)は、4案とも賛成173票、反対1票、棄権7票で可決された。第5号議案は支部規約の改定案についてであり、規約の9条「準会員は、本支部の支部規約第8条に規定する役員及び第9条に規定する評議員に就任することはできない」の下線部分を、「第10条に規定する支部長」と改定して、準会員も支部長以外の役職につけるものとし、賛成125票、反対48票、棄権8票で可決された。第6号議案の「役員人事案」については賛成157票、反対17票、棄権7票で可決された。

支部長挨拶

野口いづみ

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、支部総会も議決権行使書で行われることになりました。異例のことでしたが皆様のご協力により、無事、総会は終了することができました。

賛否の分かれた5号議案の支部規約の改正は、本部の準会員制度検証プロジェクトチームの決議の結果を反映させたものです。本部における決議の結果、準会員は支部役員(支部長を除く)になれることになりました。経過について「会報たま38号(p.2)」に報告してあります。

本支部の会員構成は通常会員243名、準会員81名、支部友1名です(p.11表参照)。最近は通常会委員の高齢化が進み、毎年20名以上の方が退会されています。そのために、毎年、役員人事で人材の確保に苦慮してきました。

一方、準会員は支部会員の1/4を占めるまでとなり、会員活動も活発で、支部主催山行では半数前後が準会員の場合もあります。また、登山教室のサポーターや各種委員会委員として活躍中の準会員も少なくなく、支部活動に欠かせない存在となっています。このような背景から、若い世代になるべく早い時期から役員として支部活動を学んでいただきたいと思います。活発な活動を継続維持していくことは会の責務と考えます。ご理解いただけましたら幸いです。

山行の自粛も解除されました。安全には十分に配慮して、山を満喫されることを願っています。本支部のさらなる発展を目指してともに歩んでいきましょう。



新幹事 自己紹介

どうぞよろしく!

北島英明氏 (事務局長・安全対策委員会担当幹事)

徳島県出身の1959年生まれです。山デビューは遅く、本格的に登りだしたのは35才から。自称アルパイン(ロック)クライマーと言っています。現在、日本スポーツ協会山岳コーチ2で、日本山岳救助隊代表理事、JMGA日本ICAR委員会委員、日本山岳文化学会遭難分科会会員などを兼務しています。2017年まで都岳連山岳救助隊長として、長年山岳遭難者の救助・捜索に従事していました。遭難者のご家族に寄り添うことを第一にしてきた経験から、行方不明者根絶を願い、安全登山普及活動を行っています。東京多摩支部は、「自ら参加し楽しめる山岳会」があるべき姿だと考えます。また、全員が「自立した登山者(冒険者)」になれるよう全力で手助けしたいと思います。

著書に山と溪谷社「山岳遭難は自分ごと」、「登山者のためのセルフレスキュー講座(電子書籍)」があります。来年には延期となった支部設立10周年記念インドヒマラヤザンスカール未踏峰遠征を計画しておりますので、よろしく願いいたします。



北島氏



小澤氏

小澤知信氏(常任幹事・総務委員会担当幹事)

長野県塩尻市の出身で1957年生まれです。本格的な山登りは、中学一年の学校行事として夏の燕岳に登ったことに始まります。見事な来光を拝んだことを、昨日のこのように覚えています。しかし高所恐怖症なので、2度と登山などするものかと思いました。

ところが高校に入った息子がなぜかワンゲル部に染まり、その姿が眩しく見えました。そんな折、職場で富士登山の話が持ち上がり、新聞広告で登山教室を知りました。早速参加した第5期初級教室で山の魅力を感じると同時に、多摩支部の居心地の良さも感じました。終了後、

第7期生のサポーターとし参加、今年は中級の受講生になりました。

写真・スケッチ、動植物観察、名山登攀、高度な登山テクニックの習得もさることながら、準備段階のワクワク感、日常を忘れて無心に登る過程、爽やかな風と旨い空気、反省会での語らい、下山後の入浴時のゆったり感といった原始的な刺激を享受したくて山に向かっている次第です。

高砂寿一氏(山行委員会担当幹事)

初めて山らしい山に登ったのは中学1年の時で、英彦山だった。門司の戸上山や皿倉山も遊び場だった。ボーイスカウトに入団してからは、第1回日本ジャンボリー(1956年軽井沢)に参加。高校は大阪だったので六甲山、比良山系、大台ヶ原、蒜山、伊吹山、御在所山などでキャンプをし、冬は妙高赤倉、志賀高原でスキー。大学ではスキー部に入り、白馬にある大学の小屋で合宿した。社会人時代は地元町田市のボーイスカウトのリーダーをしながら、八ヶ岳、霧ヶ峰、尾瀬、奥多摩、丹沢等を少年達と歩き回った。

その後、日本ナショナルトラスト協会理事として、英国とのリーダー養成プロジェクトに参加した。1990年代は毎年のように英国を訪ね研修に努めた。1995年尾瀬保護財団の設立と同時に、尾瀬の自然保全活動に毎年ボランティアで参加している。日本山岳会には、神崎講師のNHK文化センター町田支部で開催されていた「登山教室」がきっかけとなり2013年入会した。



高砂氏

村岡庸子氏（安全対策・会報・登山教室PT委員）

初めて登山靴とザックを買ったのは19歳の時。当時は山よりも自転車でのツーリングやトライアスロンなどのレースに夢中で、山はオフシーズンの楽しみの一つでした。社会人になってからは、忙しさや体力の衰えと共に自然淘汰され「山」が残ったという感じ。山遊びは奥深く、多くの発見と喜びを与えてくれます。仕事、子育てをしながらも山と触れ合ってきました。

多摩支部に入会したのは2016年。それまで所属していた奥多摩サポートレンジャー会を退会する時に、声をかけていただいたのがきっかけです。第1期中級登山教室を修了し、安全対策委員会、会報委員会、登山教室PTに所属しています。多摩支部には多くの先輩や仲間と触れ合える場や活動が多く、エネルギーをもらえるところです。また奥多摩というフィールドをベースに、四季を通じて楽しむことができるのも大きな魅力です。支部をこれからも守っていくことが、一会員としての責務と考えるようになりました。微力ながら尽力していく所存です。



登山とコロナ対策 — 感染させない・感染しないために —

山行委員会／西山さより 監修／野口いづみ

地元住民と登山仲間へのウイルス感染を防ぐために、順守してください

登山前	<ul style="list-style-type: none"> ① 3日前～当日までの体調と体温を記録したものを山行リーダーに提出する。 ② 少しでも風邪症状があったり、体調が悪い場合は参加しない。 ③ 自分の指で目、鼻、口に触らないように習慣づける。
携行品	<ul style="list-style-type: none"> ① 消毒グッズ（除菌シート・ジェル） ② マスクやプラスチックの手袋 ③ 密閉できるゴミ袋
登山中	<ul style="list-style-type: none"> ① 1パーティは10人以下とし、人数は適宜判断する。 ② ソーシャルディスタンスとして前後2m以上間隔をとり、できるだけ真後ろを避け、並んだり、斜め後ろの位置を歩く。すれちがう時は1.5m以上間隔をあける。 ③ 休憩時も密集を避け、間隔をとる。 ④ 手指の消毒励行→鼻かみ・咳くしゃみ後、トイレ使用前後、食べる前、鎖場や梯子を通過後、共同装備（ザイル、カラビナなど）を使用した後。 ⑤ 大声で話さない。 ⑥ 食糧・ドリンクの共有をしない。
移動中	<ul style="list-style-type: none"> ① 公共交通機関内ではマスクを着用。 ② 車内・トイレなどでザックや荷物を床に置かない。 ③ 手すりや吊革に触れない。 ④ 車、タクシーでは窓を開け換気をする。 ⑤ 地元住民との接触を避ける。
宿泊 (野口 加筆)	<ul style="list-style-type: none"> ① 小屋・テント内ではマスクを着用する。手の消毒をしっかりとる。他の方の荷物に触れないように注意する。 ② 小屋泊では必ず予約を取り、小屋の指示に従う。食事は対面を避けて取る。寝具はシュラフかインナーシュラフなどを持参するのが好ましい。 ③ テント泊の場合はできれば一人一張り好ましいが、不可能な場合は利用者は定員の半数以下を心がけ、換気をしっかりと行う。夏はタープの使用も考える。

参考：JAC会報「山」901号（6月号）p.14、日本登山医学会 HP (<http://www.jsmmed.org/>)

Team KOI「登山 with コロナ」(<https://www.yamakei-online.com/yama-ya/detail.php?id=1046>)
(<https://www.yamakei-online.com/yama-ya/detail.php?id=1047>)

<第2期中級登山教室>

南高尾山稜縦走 —中級登山教室スタート！—

【日 時】2020年6月20日(土)

【天 候】快晴のち曇

【参加者】13名(受講生10名、講師3名) / 山行リーダー: 宮崎

〔1班〕講師: 佐藤(守)、広瀬、小澤、長岡、松島、中村(敦)、

〔2班〕講師: 北島、山内、大澤、石川、藤本、渡辺

【行 程】7:20 高尾山口駅→7:40 四辻→9:00 草戸峠→9:15 草戸山→9:45 榎窪山→9:55 三沢峠→10:20 西山峠→
10:55 見晴台(昼食)→11:50 コンピラ山→12:30 大垂水陸橋→13:40 城山分岐→14:05 一丁平→
14:50 高尾山→16:45 稲荷神社→17:00 ケーブルカー清滝駅

【記 録】

7:20 京王線高尾山口駅を出発。以後、1 時間に 1 回、原則 10 分の休憩を入れるペースで歩く。駅から 100m ほど南下した交差点から登山道に入り、樹林帯の中に行く。自粛のために数ヶ月ぶりとなる山は、とてもうきうきする。

最初の休憩時に天気の確認と、宮崎さんからペース配分についての注意がある。先頭は後方の様子に気を配りながら自分のペースより遅く歩くこと、実際の山行では状況に応じて予定時刻を修正していく臨機応変さを身に付ける必要があるとのこと。



高尾山山頂にて

昨晩降った雨のおかげで新緑がきれいに映え、終始聞こえた山の鳥の鳴き声が心地よかった。9:15 に草戸山着。三沢峠以降のピークはコンピラ山まで足取り軽く巻道に行く。見晴台のベンチで横並びで昼食をとった。雲がかかっていたが開けた眺望は気持ちがよく、リフレッシュできた。県境をまたぐ移動制限が解除された直後の週末で、登山者、トレイルランナーが多かった。マスクを着用している方は少なかったが、すれ違う際、意図的に顔を背けながら挨拶されることがあり、少し残念な気持ちになった。

12:30 に大垂水陸橋を通過。骨折完治直後の長岡さんは足に痛みが生じ、宮崎さんと別ルートで高尾山へ向かい、一丁平で合流した。城山は山頂へは向かわず、分岐から一丁平へ進み休憩をとった。

高尾山山頂で集合写真を撮り、稲荷山ルートを下山。ケーブルカーの清滝駅で解散。足自粛生活で鈍った体に 9 時間越えの山行はきつかったが、新しい仲間と登った山はとても楽しく、充実した一日を過ごすことができた。

(文/松島貴志子 写真/藤本浩文)

ミニレポート

奥武蔵オリエンテーリング

日時/2020年6月6日

参加者/L 植竹(会員外)、SL 野口、石川、石原、植草、桜井、
嶋田、清水(茂)、中原、西山、人見、茂呂、吉川
行程/高麗駅—物見山—日和田山—巾着田—高麗駅

沢登同好会で講師をしていただいた植竹氏(練馬山の会)にオリエンテーリングをお願いした。高麗周辺のハイキングは良い地図読みの練習になり、またコロナ自粛後の足慣らしにもなった。

日和田山の金毘羅神社から奥武蔵を一望



物見山にてマスク姿も多い



<名山を楽しむ会>

火打山・妙高山 ー花々を愛でながらー

【日 時】2020年6月27日(土)～28日(日)

【天 候】1日目/晴れ、2日目/小雨のち曇り

【参加者】11名/佐藤、SL中原、SL西山、赤坂(憲)、植草、鬼村、齋藤、清水(茂)、清水(義)、富永、村岡

【行 程】1日目/妙高高原駅＝9:30笹ヶ峰登山口→10:35～45黒沢橋→11:25～35十二曲がり→12:40～50富士見平→13:45～14:00高谷池ヒュッテ→15:45～16:00火打山→17:30高谷池ヒュッテ(泊)
2日目/7:10高谷池ヒュッテ→8:25～9:00黒沢池ヒュッテ→10:00～15富士見平→12:00黒沢橋→13:05笹ヶ峰登山口

【記 録】

◇6/27◇梅雨真っ直中、天気予報は期待できるものではなかった。それでも自粛明けの登山とあって気持ちは高まった。JR長野駅からしなの鉄道に乗り換えたところで全員集合し、3両編成の車両に分散して乗車。妙高高原駅へ向かう途中、日が差してきた。タクシーで笹ヶ峰登山口へ。登山口駐車場には30台ほどの車が見えたが、まだ少なめとのこと。

登山道に雪はなく、可憐な花々が私たちを迎えてくれた。黒沢橋の袂に咲いていたタニウツギはピンク色の花で甘い香りを漂わせていた。十二曲りは勾配のきついところもあったが、そこそこに咲くマイヅルソウ、サンカヨウ、キヌガサソウなどの写真を撮りながら歩いた。道はキツイが、みな軽快な足取り。

富士見平手前の標高2000m過ぎるあたりから、残雪がちらほら見えるようになってきた。高谷池ヒュッテに一部の荷物を置き、身軽になって火打山をめざす。途中の湿原は天狗の庭と呼ばれ、池塘が点在しハクサンコザクラや水芭蕉が風に揺れていた。湿原の奥に雪化粧を残した火打山があり、なるほど百名山にふさわしい山容だと感じた。

火打山山頂にて展望を楽しむ



妙高山を背に火打山へ登る濡れて透明になったサンカヨウ

雪渓を三カ所ほど通過した。山頂に着いたのが遅めだったので貸切状態。北アルプスの山々や翌日向かう妙高山など360°の眺望をゆっくり楽しむことができた。ヒュッテでは感染対策として一人一人のスペースをシートで区切ってあった。いつもより簡素だというおいしい食事をいただき、20時に消灯。

◇6/28◇日の出前から雨。出発を予定より30分遅らせて様子を見る。出発を待つ間、植草さんにヨガ講座をしてもらい、前日の歩行でかたくなった筋肉をほぐした。雨が1～2時間で上がる可能性があるため、とりあえず黒沢池ヒュッテまで移動し、そこで天候を判断することにした。

7:10雨具をつけて出発。雨の恵みでサンカヨウの花びらが半透明になっていた。思わず息を呑む美しさ！雨に濡れた登山道は滑りやすく茶臼山からの下りに苦労した。8:25黒沢池ヒュッテ着。下りで転倒した1名が運悪く手首を痛めてしまった。手当をするのが腫れがでてきて痛みもあったため、妙高山へは行かず、下山することにした。復路も花を愛でながら歩くことができた。下山後は近くの温泉に入って汗を流し帰路についた。

(文・写真/村岡庸こ、写真/鬼村邦治、中原三佐代)

< 名山を楽しむ会 >

シダクラ沢 — 核心は源頭部の詰めだった —

【日 時】2020年 7月11日 (土)

【天 候】曇時々雨

【参加者】4名 / L 佐藤、SL 齋藤、清水 (茂)、植草

【行 程】奥多摩駅⇒8:33 惣岳バス停⇒8:42 シダクラ橋⇒9:12 入渓点⇒13:50 源頭部⇒15:40 登山道⇒16:45 サス山⇒18:10 奥多摩湖バス停着⇒奥多摩駅

【記 録】

シダクラ沢は沢としては入門コース。水は澄んでいて美しいが、連日の降雨で水量は明らかに増している。今日が沢デビューのメンバーもいるので、慎重に歩き始めた。滝の中のホールドやステップが水流で見えづらく、手足で確かめながら小滝を登り、厳しいところは高巻きをし、遡行する。デビューのメンバーも果敢に滝のど真ん中を進んでゆく。一般登山道では味わえない滝の連続、巨木、綺麗なナメ滝の景観も相まって、沢登りの魅力に気づいてくれたようで嬉しい。最後、源頭部に出てから登山道までの詰めがとても厳しい。たっぷり2時間グツグ

ツ落ち葉の急斜面を地図とGPSを頼りに汗ダクで奮闘。ようやく大ブナ尾根登山道に出た時にはほっとした。一般登山道とはなんと歩きやすい道なの！と感動した。次回は晴天の真夏日にまた沢に行きましょう！

(文 / 植草由利、
写真 / 齋藤理恵子)



一歩一歩慎重に

< 個人山行 >

ウルシガ谷沢 — 無心で挑む滝登り —

【日 時】2020年7月12日 (日)

【天 候】曇りのち雨

【参加者】6名 / L 植竹 (会員外)、SL 伊藤 (会員外)、植草、川崎、中原、野口

【行 程】武蔵五日市駅⇒8:50 PA 発⇒9:35 ウルシガ谷沢出合⇒9:55 ~ 10:20 入渓点⇒10:40 二俣⇒左俣遡行⇒14:00 稜線登山道⇒14:35 ~ 50 市道山 (795m)⇒16:15 PA 着

【記 録】

車で小坂志林道に入り、ゲート手前で駐車。9:55 入渓点到着。皆、手際よく準備をし、いざ入渓。しばらくすると右俣と左俣の分岐。左俣に行く。登山道と違い、自分でどこに足を置くのか考えながらジャブジャブと進むのがたまらなく面白い。深い滝壺は周りの壁をへつりながら近づいて登る。どの滝も水量が多いため、水の圧力でうまく足場をとれない。下から見て予想して

いても、いざ登ると足場が探せない不思議。3つの滝でリーダー達が先行して、上部で確保してロープを降ろしてくれた。ロープがある安心感があったが、思い切って足を踏み出すとズルリと滑ってしまうことも。無心で登ることがとにかく楽しい。最後の滝を登り終わると、ほっとりと陽だまりがあり休憩。あとは沢を詰め、登山道に出た。市道山からは雨。カッパを着て、分岐からヨメトリ坂を下った。小坂志川へ出ると案の定、橋が無い。沢靴を履きなおし渡渉、無事、林道へ戻った。今夏もまた経験を積んでいきたい。(文 / 川崎真琴、写真 / 野口いづみ)



最後の10m滝にて

<名山を楽しむ会>

伊豆ヶ岳 ー東尾根で地図読みー

【日 時】2020年6月6日(土)

【天 候】曇り

【参加者】6名/L佐藤、SL齋藤、鬼村、富永、中村(敦)、広瀬

【行 程】9:15西吾野駅→9:45森坂峠→10:10下久通→11:00ドラえもん尾根→13:20伊豆ヶ岳頂上→14:35正丸峠→15:35正丸駅

【記 録】

緊急事態宣言解除後の登山初め、足慣らしとして参加した。東尾根は地図上に登山道の実線がないが踏み跡があり、地図に記されても良さそうだった。2カ月も使っていない筋肉や膝裏やもも裏側



東尾根にて

が痛く感じたが、30分ごとに休憩をとり、あまり疲れずに登れた。下久通から琴平神社を過ぎ、東尾根に入る。激しいアップ

ダウンはなく、現在地の確認をしながらトップを交代して進む。伐採され見通しがあった。頂上直下は岩と木の根だらけの40度はありそうな急斜面。ヘルメット・簡易ハーネスを付け、先頭の齋藤 SL に続いてロープに繋がって登る。一人一人のペースが違うので、上も下も気にしながら登る。引っ張られたらストップの声を掛け、三点確保で切り切った。曇っていたので正丸峠の展望も今イチだったが、楽しかった。峠から少し荒れた沢沿いの道を下った。電車に乗ると窓の外は土砂降りで雷まで鳴りだした。まだ県境越えや山小屋泊など制約が厳しいが、「やっと登れる」という気持ちが沸き上がって来た。(文/中村敦子、写真/佐藤守)

自然保護委員会

秋川・多摩川の水環境調査報告

全国水環境マップ実行委員会主催の「身近な水環境の全国一斉調査」の活動に参加して、7年になる。山の水場の水質調査をしたかったが、水質調査をマスターする必要がある。団体の知人から、秋川、多摩川の合流点付近を調査するように依頼されて登録申請した。

全国では6,200地点を越える河川調査が行われている。調査項目は、気温、水温、試水水温、COD(水中の有機物量の目安)。測定点は合流点上流の秋川、多摩川と合流点下流の多摩川の3カ所である。

第17回目の今年は、今年の台風19号により多摩川も荒れているに違いない。調査日は世界環境デー(6月5日)に近い日曜日に設定された。6月7日はコロナ禍で参加者は浅香、河野。拝島駅から陸橋を渡り、多摩川の右岸の河原に下りる。

河原のヤブ漕ぎをしながら多摩川沿いをくぐる。秋川との合流点は、土砂で完全に埋まっており、



昭和用水堰下の多摩川左岸

測定点は従来の合流点上流の秋川左岸と、その東側の多摩川右岸と、昭和用水堰下の合流点下流左岸に変更した。

CODの数値は従来とあまり変わりがなかった。結果は実行委員会のHPに掲載される。山の水場の水調査は足が遠のくばかりである。

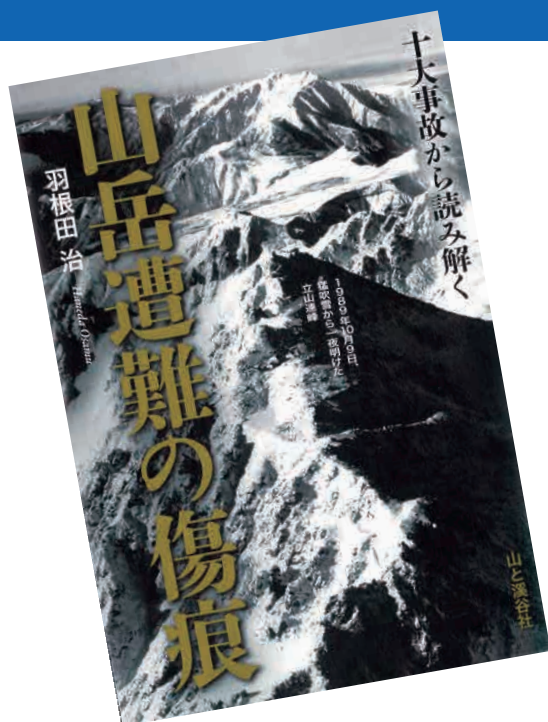
(文・写真/河野悠二)

<書評>

「山岳遭難の傷痕」

羽根田 治 著

山と溪谷社 1700円



遭難事故はなぜ起きるのか



評・近藤 雅幸

10年ほど前、北鎌尾根で雷雲に遭遇したことがある。早朝に水俣乗越を越え、北鎌沢を登る途中でふと見上げると雲一つないすっきりとした深い青空が視界に飛び込んできた。まさに絶好の登山日和だった。様子が変わったのは天狗の腰掛を越えたあたりである。眼前の北鎌独標がガスにまかれ始め、陰惨な雰囲気を醸し出していたのが記憶に残る。

北鎌独標を越え30分くらいたったあたりで、大きな雨粒がぼつりぼつりと落ちてきた。間もなく雨は滝のようになり、それと同時にあたりの空気を引き裂くような雷光と雷の咆哮が、私の周囲を支配するようになった。

もちろん岩稜の上だから、逃げることもできない。岩の一つにちょっとした窪みがあったので、そこに身を潜めて、雷雲が遠ざかるまでの3時間をガタガタ震えながら待ち続けた。私が今まで山で一番死に近づいたと感じた時である。

本書の第7章、「西穂独標の学校登山落雷事故」を読み進めていたら、その時のことが昨日のことように脳裏に浮かんだ。

西穂独標の事故は1967年の夏に松本深志高校恒例の集団登山で起こった落雷による事故である。集団登山で西穂高岳を登っていた高校生や教師など55人が西穂独標で落雷を受け、11人が死亡し、11人が重軽傷を負った痛ましい遭難事故である。

当日の天気予報は「晴れ、午後には一時曇り」というものであり、少なくとも往路の独標までは多少の雲はあるがほぼ好天だったという。

事故報告書は原因の一つとして「引率教員の気象に対する知識の不足や経験の浅さに加え、雷に対する恐怖心が先立ち、警戒を怠ったこと」を挙げている。しかし著者が、「もし自分がその場にいたら独標から引き返すという判断が果たしてできたか自信がない」と書いている。私もそこにいたら、引き返すという判断はしなかったと思う。実際私の場合も同じような場面で、引き返すことなど思いつくこともなく雷雲に遭遇して危機的状況に陥ったのだ。

本書には山岳史に残る十件の遭難事故が挙げられている。そのうち多くは天候の急変や異常な気象状況など、予想ができない事態によって流れが悪い方向に向かってしまったことに起因する。

私が北鎌尾根で雷雲に遭遇したときも、退避の判断や場所、行動再開のタイミングなど、何度か決死の選択をしなければならなかった。偶然にも岩の窪みが近くにあっておかげで、危機的状況を切り抜けることができたが、選択を一つでも間違えていたら今私は書評を書いていなかったらう。

本書はそういったことを含めて歴史的な事故を題材にして、どんな流れや判断によって山岳遭難事故が起きるか考える機会を提供してくれる。

皆さんもぜひ本書を手にとって、遭難がなぜ引き起こされるのか、今一度、考えてみることをお勧めしたい。

インフォメーション／山行・イベント

★は「体力／技術」

＜山行委員会 / 定例山行＞

◆三頭山・御前山 9/12(土) ★★★/★★
 初秋の奥多摩二山を歩こう。集合 / 都民の森06:00(数馬前泊)、都民の森→ムシカリ峠→三頭山→月夜見山→大河内峠→惣岳山→御前山→湯久保山→仏岩の頭→小沢バス停＝五日市駅、歩行時間 / 10 時間、
 申込 / 小野、締切 9/2(水)

◆王岳 (御坂) 9/26(土) ★★/★★
 御坂西部の盟主・王岳に登る。集合 / 富士急行線河口湖駅 08:40、河口湖駅＝根場民宿→王岳登山口→鍵掛峠→王岳山頂→五湖山→女坂峠→精進バス停＝河口湖駅(コロナ禍でバス運行休止と計画変更の可能性あり)歩行時間 / 5～6 時間、 申込 / 石橋、締切 9/16(水)

◆天目山 (奥多摩) 10/10(土) ★★★/★★
 静かな山歩きと紅葉の森林浴を楽しむ。集合 / JR 奥多摩駅 07:15、奥多摩駅＝東日原バス停→滝入りの峰→ヨコスズ山→一杯水避難小屋→天目山 (ミツドッケ) →往路を戻る、歩行時間 / 6 時間 50 分、
 申込 / 小野、締切 10/5(月)

◆鶴ヶ鳥屋山 (笹子周辺) 11/14(土) ★★/★★
 晩秋の低山を歩く。集合 / JR 笹子駅 08:00、笹子駅→林道船橋沢終点→林道黒野田線→山頂→林道黒野田線→丸田沢→初狩駅、歩行時間 / 7 時間、
 申込 / 石橋、締切 11/4(水)

◆鍋割山 (丹沢) 12/12(土) ★★★/★★★
 ブナと富士山展望の周回コース。集合 / 小田急線渋沢駅 07:30、渋沢駅＝(タクシー)＝表丹沢県民の森入口→二俣→二俣分岐→小丸→鍋割山→後沢乗越→ニズヒ沢出合→二俣→大倉バス停＝渋沢駅、歩行時間 / 7 時間 30 分、
 申込 / 赤坂 (憲)、締切 12/2(水)

＜連絡先＞

赤坂 優貴	masaki-r380.bcnr33@docomo.ne.jp	090-1632-3637
赤坂 憲子	Noriko-h26kota.h11momo@docomo.ne.jp	090-3085-6157
石橋 學	m.ib@gaea.ocn.ne.jp	090-2670-0895
小野 勝昭	katuaki.ono@gmail.com	090-9014-7251
酒井 俊太	shuntasakai00707@nifty.com	090-9317-4157
齊藤理恵子	rie.bad.guts2804@gmail.com	090-8101-7877

＜山行委員会 / 平日山行＞

◆丸山 (奥武蔵) 9/24(木) ★/★
 奥武蔵随一の展望を楽しむ。集合 / 西武秩父線芦ヶ久保駅 09:10、芦ヶ久保駅→倉掛登山口→日向山分岐→県民の森→丸山山頂→大野峠→赤谷登山口→芦ヶ久保駅、歩行時間 / 5 時間 10 分、
 申込 / 赤坂 (優)、締切 9/14(月)

◆大楠山 (三浦半島) 10/22(木) ★/★
 三浦半島の最高峰。集合 / 京浜急行安針塚駅 09:20、安針塚駅→塚山公園→本円寺→大楠山登山口バス停→阿部倉温泉分岐→大楠山→前田川→前田橋バス停＝JR 逗子駅、歩行時間 / 3 時間 30 分、
 申込 / 酒井、締切 10/15(木)

◆守屋山 (茅野周辺) 11/9(木) ★/★
 諏訪湖を見下ろす南ア最北端の山。集合 / JR 茅野駅 08:50、茅野駅＝(タクシー)＝守屋山登山口→アカエ沢源頭→東峰→守屋山山頂 (西峰)→往路を戻る＝茅野駅、歩行時間 / 4 時間、
 申込 / 石橋、締切 11/9(月)

◆秋山二十六夜山 (道志) 12/24(木) ★/★
 富士山見納め山行。集合 / JR 上野原駅 08:20、上野原駅＝浜沢バス停→二十六夜山→下尾崎バス停＝(タクシー)＝上野原駅、歩行時間 / 3 時間 15 分、
 申込 / 齊藤、締切 12/7(月)

訃報 安田令さん やすらかに



安田令さん (A0160) とは第 5 期初級登山教室で一緒だった。スリムな体躯とは裏腹にお父上譲りのアウトドア派で、毎年スキー旅行を欠かさないとのことで、タフでトラブルもなく模範的な受講生だった。ハードな山行でも笑顔を絶やさず、おっとりし、誰からも好かれて、講師や諸先輩からも人気があった。

JAC 入会後は、自然保護委員会に参加され、将来的に支部活動の担い手としての活躍が期待されていた。昨年 5 期 (ひよっこ会) の忘年会で久しぶりにお会いし、「私が帰ってくる所はここ」と明るくおしゃっていたのが最後となった。享年 52。ご冥福をお祈りいたします。

(矢澤大史)

会務報告

日本山岳会令和2年度通常総会報告

支部長 野口いづみ

本部令和2年度通常総会が6月20日、主婦会館プラザエフ（東京）で開催された。新型コロナウイルス感染防止のために出席人数を制限し、総会の様子を動画配信した。総会出席者は25名、委任状提出者は592名、議決権行使書提出者は2411名で、合計3028名となり、会員数の4564名の過半数を上回り、総会は成立した。令和元年度の「事業報告」、「決算報告」、「定款施行細則の変更」が審議され、可決、承認された。一方、今年度の事業達成の見通しはついていない。また、会員と寄附金の減少が報告された。動画の閲覧者は30名程度だった。

幹事会報告（特記事項のない委員会の報告は省略。詳細は支部HP「会議案内」を参照）

■第118回 幹事会報告

日時 2020年4月17日（火）メール審議。
出席：（幹事）野口、高橋、武藤、山本、植草、河野、小野、佐藤、中村（敦）、岡田、（監事）小清水、小口、計12名、欠席：長瀬、石塚、記録：山本

[野口支部長挨拶] 総会は書面審議をもって行うことになった。

[事務局連絡]（山本）都岳連関連はイベント中止と業務縮小、総会について報告。支部関連は全国支部懇談会（宮崎）は10月に延期。本部関連はルームの使用制限など。

[審議事項] 2019年度決算は、財務委員会より提出された貸借対照表（案）と収支計算書（案）の一部修正を加えて承認。通常総会は書状による議決とすることが総務委員会より提案され、承認。通常総会議案が幹事長より示され、文言の一部修正をして承認。

[委員会報告]

（武藤、総務）支部総会の準備について報告。

（野口、会報）会報41号は山行、イベント中止が多く、頁数を減らす。

（小野、山行）4月～9月山行は緊急事態宣言発令中は中止。新委員長は未定。

（河野、自然保護）野火止用水保全地域見学会実施（40号p.20参照）。

（佐藤、安全対策）石井委員長は退任、後任は北島英明氏。

（山本、登山教室）8期初級登山教室の申込は28名。7月までの山行は中止し、8月5日に講座実施。9期初心者登山教室の申込は31名。5月～8月は中止し、9月開始。2期中級登山教室の申込は10名で、予定は再検討。

（高橋、10周年記念）4月長尾平は秋に延期。4月と7月のエベレスト街道とモンゴル海外トレッキングは延期。5月に10周年記念誌発刊予定。ザンスカール遠征は来年に延期。

■第119回 幹事会報告

日時 2020年5月19日（火）21:00～21:30（二次座談会 21:35～21:55）

場所 各自自宅にてオンライン会議（Zoom使用）
出席：（幹事）野口、植草、岡田、北島、河野、佐藤、高砂、中村（敦）、村岡、小澤、（監事）小口、竹中、計12名、欠席：高橋、記録：野口

[野口支部長挨拶] 総会が議決権行使書による書面審議で行われ、全案可決された。

[事務局連絡] 都岳連関連として事務所閉鎖、登山教室、机上講習、実技講習は中止。総会は書面による議決で行う。本部関連としてルームは5月31日まで入室禁止。

[審議事項] 幹事の役割の決定。武藤前幹事長、山本前事務局長、長瀬幹事、石塚幹事、小清水監事は退任。新幹事は小澤、北島、高砂、村岡の4名で、新監事は竹中が就任。再任は野口支部長、高橋清輝副支部長、委員会担当幹事は財務・会計の植草、自然保護の河野、奥多摩BC運営の中村、会報の野口は再任。新任は佐藤幹事長、北島事務局長、総務委員会の小澤委員長（常任幹事兼任）、ICT委員会の岡田、山行の高砂、安全対策の北島委員長（兼任）。監事は竹中（新任）、小口（再任）。

[委員会報告]

（植草、財務）2017年度～未入金者1名は除籍勧告。奥多摩BC家賃1年分105、600円振込。

（小澤、総務）5月9日に議決権行使書の集計を行い、全案可決。結果を多摩MLにて通知し、HPにアップ。葉書にて通知予定。行使書のコメントは今後検討。新入会員オリエンテーションは9月に開催予定。新春の集いは検討中。今田委員、土井充委員が退任。武藤委員長は委員は継続。

（野口、会報）会報40号を発刊。会報は会員、JAC本部、マスコミ、奥多摩関係など272カ所、8・9期生52カ所に配送。4月新入会者約20名（主に7期生）は、承認後、配送予定。HPにアップされ、メール会員62カ所と各支部32カ所に配信。41号は書評、エッセーなどを募集。加藤委員が退任。

（山本、岡田、ICT）メーリングリストは新メンバーに更新。HPとメルマガ「たま便り」のあて先はyamamoto@jac-tama.or.jpに変更。

（小野、山行）5月山行は中止。6月～9月山行は緊急事態宣言解除後は社会状況を考慮。

（河野、自然保護）野火止用水保全地域を測量し約23,430㎡と判明。作業日は奇数月は平日の第4または第5火曜日、偶数月は第4日曜日。担当（サブ）は、野火止保全は岡田・高間、都レンジャーは濱野、御岳山レンゲショウマは小河、講演会は中村（正）。お楽しみ観察会は中止。

（佐藤、北島、安全対策）登山計画書提出方法（個人山行）について「周知チラシ」を作成し、10周年記念誌に同封して配付。

（中村、BC運営）「生ビールと花火」は夏祭りが中止の場合は中止。奥多摩BCを臨時閉所。

（河野、登山教室）8期初級登山教室は5月～7月を休止として8月の講座から再開する準備をする。会場は柴崎学習館（定員50人）。9期初級登山教室は9月開始とし、準備に入る。2期中級登山教室は緊急事態宣言解除後の6月からの開催を検討。

（高橋、北原、中村、10周年記念事業）記念誌を発刊。450部の配布先は、支部会員314部、追悼関係6部、式典来賓4部、本部理事等20部、他支部32部、残数22部。7期入会者には別途郵送。

■第120回 幹事会報告

日時 2020年6月16日(火) 18:15～20:15
 場所 立川女性総合センター5階 第1会議室
 出席:(幹事)野口、高橋、北島、佐藤、小澤、植草、岡田、高砂、河野、中村(敦)、村岡、(監事)小口、竹中、計13名、記録:佐藤
 幹事会の前に感染症の研究者の菅又昌実先生の講話あり(p.12参照)。

[野口支部長挨拶] コロナ禍で大変な時期。協力し合って難局を乗り越えていきたい。

[審議事項] 新型コロナウイルス感染症による事業の見直しについて説明・審議を行い、了承された。(植草、高橋、財務・10周年記念) 海外遠征延期に伴い、寄付金の現状について中間報告する。

(小澤、総務) 新入会員オリエンテーションを9月17日に実施。納涼ピヤパーティは中止。新春の集いは1月30日に公共施設で実施予定。講演会は未定。(野口コメント) 新入会員オリエンテーションで予約した武蔵小金井商工会議所の萌え木ホールは定員100名(利用人数を半分で50名)、夜はほとんど空き、1時間800円と安い、2面が大きな窓で換気がよい。今後、利用を検討されたい。

(高砂、山行) 定例は7月田代山・帝釈山⇒唐松山・天竺山、8月白砂山⇒小檜山、9月王岳は実施予定。9月槍ヶ岳は変更予定。平日は7月、9月は実施予定、10月榛名山は代替案検討中。10周年長尾平懇親会は中止、10月雲取山は1年延期予定。

(河野、自然保護) 御岳山レンジョウマ観察会は中止。

(北島、安全対策) 安全登山講習は保留。奥多摩駅前での安全登山啓発チラシ配布は関係機関と協議が整えば実施。安全登山講習会のメディカルハイキング、現地対応シミュレーション、遭難対策本部シミュレーション、ロープワーク、登山技術

講習ロープワークは保留。セルフレスキュー講習とエネルギーと水分補給の講習は中止。

(中村、BC運営) 「生ビールと花火」は中止、9月アートフェスティバルへの参加と芋煮会は未定。

(河野、登山教室) 8、9期初級登山教室はすべて中止。中級登山教室は6月は南高尾山稜に変更、7月以降は未定。(野口コメント) 8、9期の登山教室を中止するという事は支部として非常に重要なことなので、このような案件は今後、PT内の一部の方で結論を出すのではなく、幹事会などにも相談してほしい。

[委員会等報告]

(植草、財務) 2019年度収支決算報告、2020年度予算が承認されたので、積立金規定により以下金額をゆうちょ銀行定額貯金に積み立てる。ルーム:(776,876*安全積立金74,600*利息10*会員内祝い10,000-寄付金286,500)×50%=202,883⇒203,000円。周年事業:(同上405,766)×25%=101,441⇒102,000円。ゆうちょ銀行に定額貯金とする。

(小澤、総務) 新委員長に小澤委員が選任。支部総会の決議事項を葉書により通知。

(野口、会報) 支部事業が延期・中止等の際は会報委員会に連絡のこと。

(高砂、山行) 委員長は小野留任、副委員長に高砂・中原。企画係を設置。

(河野、自然保護) 水質検査実施(本号p.7参照)。野火止保全活動は標識杭を設置。

(北島、安全対策) 副委員長制を導入。事故の発生状況の公表、ヒヤリハット情報の扱いを協議。

(河野、登山教室) 8期は集まることが可能になれば講座・講演会などを行う。9期は来年度、再募集。本年度の申し込み者は優先受付。

2020年度会費入金状況

(財務委員会)(人数)

	入金者数	未入金者数	合計
4月	311	14	314
5月	257	69	326
6月	274	53	327

*4月入金後退会者14名

種別残高(財務委員会)

	普通預金	郵便振替口座	安全対策積立金	ルーム積立金	周年事業積立金
4月末	1,604,954	553,980	1,225,829	790,000	202,000
5月末	1,147,015	783,580	1,225,829	588,000	202,000
6月末	260,234	850,850	1,225,829	791,000	304,000

BC利用状況(BC運営委員会)

4～6月利用者	宿泊者・日帰り	0
---------	---------	---

会員動向 4～6月(総務委員会)(人数/名)

	総会員	通常会員	準会員	会友
4月末日	313	245	67	1
5月末日	323	241	81	1
6月末日	325	243	81	1

登山計画書受理・検討数(安全対策委員会)(件)

月	支部山行	同好会山行	個人山行	合計
4月	-	-	-	-
5月	-	-	-	-
6月	1	-	6	7
4-6月合計	1	0	6	7

会員移動 4～6月(総務委員会)

4月	入会	2名	中村啓司(A0309) 野口正江(16552)
	退会	7名	川尻久美子(15972)、小森田清子(A0155)、武井敦子(A0161)、竹内蒸江(16013)、寺井成世(A0153)、能美清(A0114)、山崎展生(15983)
5月	入会	18名	藤本浩文(16623)、石橋身江子(16640)、村上京子(A0317)、上市博子(A0318)、高岡洋子(A0319)、小林美喜(A0320)、山本曜子(A0322)、川合薫(A0325)、矢野真由美(A0326)、中村美春(A0328)、上田留美子(A0329)、大畑直子(A0330)、西岡茂子(A0334)、菅野玲子(A0336)、皆川直美(A0337)、菅野丈人(A0338)、菅野浅代(A0339)、元木尚子(A0340)
	退会	8名	荒木正弘(5035)、野島征三(7806)、徳永泰朗(13134)、加藤大雄(16471)、加藤真美(16472)、大兼まゆみ(10192)、三澤彩花(A0024)、大根菜津美(A0152)
6月	入会	2名	斎藤 徹(16593)、松島 貴志子(16594)

カレンダー（2020年9月～12月）

日程	山行	イベント（講座・講演）
9/12（土）	定例山行「三頭山・御前山」	
9/17（木）		新入会員オリエンテーション
9/20（日）～9/22（火）	第2期中級登山教室 / 場所未定	
9/24（木）	平日山行「丸山（奥武蔵）」	
9/26（土）	定例山行「王岳」	
10/10（土）	定例山行「天目山」	
10/22（木）	平日山行「大楠山」	
10/29（木）		自然保護委員会講演会「高尾山人気の秘密と植生の不思議」（石井誠治氏）
10/31（土）～11/1（日）	第2期中級登山教室 / 場所未定	
11/14（土）	定例山行「鶴ヶ島屋山」	
11/18（水）		安全対策委員会講習会「緊急時現地対応・遭対本部シミュレーション」
11/19（木）	平日山行「守屋山」	
12/5（土）		JAC 年次晩餐会
12/12（土）	定例山行「鍋割山」	
12/24（木）	平日山行「秋山二十六夜山」	

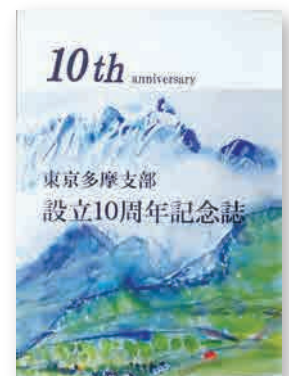
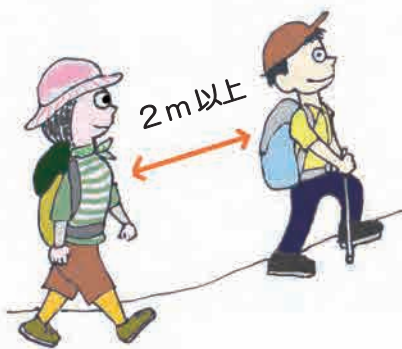
（コロナ禍により変更がありますので、申し込み前に確認してください）

第120回幹事会講話 新型コロナウイルス感染症について

講師 菅又昌実氏

（厚生労働省国立感染症研究所企画調整主幹室、首都大学東京名誉教授）

コロナ・ウイルスは新しいウイルスで、過去の感染症の事例が必ずしも当てはまらない。日本は欧米諸国に比べ死亡者が少ないが理由はまだ分からない。分かっているのは、ほとんどが飛沫感染、あるいは気流に乗ったエアロゾルによる感染、手などに付着したウイルスによる感染ということ。飛沫は手を伸ばした長さの2倍程度しか飛ばないので、ソーシャルディスタンスを保つかマスクをすることで防げる。気流に乗ったウイルスは、小さいためマスクを通過してしまうが、換気すれば良いし、室外では気にする必要はない。ウイルスは体表に付着しただけで感染が成立するわけではなく、体内で増殖することで病原性を発揮する。コロナ・ウイルスが体内に侵入しても、体内で増殖しない限り発病しない。増殖させないために体調を管理することと、感染を防ぐために外出から戻った時は必ず手洗いをするなどの注意が大切。登山時の注意について、登山前の健康状態を把握するために体調と体温を3日前から観察し記録しておくこと、歩行中は前後2m以上の距離を置き、休憩時も密にならないようにする、マスクと消毒用薬剤（アルコールジェル等）を携行するなどを挙げた。



編集後記 故安田令様は昨年の5期生の忘年会で、「私が帰ってくる所はここ」といわれたとのこと、同期会「ひよっこの会」への愛情と居心地よさがうかがえます。その場を早々に旅立たれたことは残念でなりません。また、登山教室の修了生にそのような場を持っていただけたことは望外の喜びです。今年度の初心者と初級者登山教室は中止されましたが、再開が待たれます。一刻も早いコロナの終息を願っています。（野口いづみ）

会報 **たま** 第41号 2020年8月7日発行

発行所 公益社団法人日本山岳会東京多摩支部

〒188-0011 東京都西東京市田無町 4-11-11

izumi_noguchi@yahoo.co.jp,

会報委員会 野口いづみ、石川さとみ、川崎真琴、

村岡庸こ、吉川三鈴、SP 植草由利、

櫻井美奈子、嶋田恵美子